

第3回選定委員会議事録

令和5年7月21日(金)

【開会】

- ◇事務局 遅刻者報告
- ◇会長 議事確認
- ◇事務局 日程についての説明

【国語】

- ◇調査員 東京書籍。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑦、4-⑨、5-⑪。
教育出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-⑤、3-⑧、4-⑨、5-⑪。
光村図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-⑥、3-⑦、4-⑨、5-⑪。
初めに、東京書籍の教科書について説明する。この教科書では特に第1の観点と第2の観点を取り上げる。
まず、第1の観点の「基礎・基本の定着」について。
2年上の教科書の38ページ。単元の目標の示し方では、単元導入の見開きのページで、単元で身につける資質・能力を「言葉（ことば）の力」で示している。そして、48ページの単元末の「ふりかえる」では、「言葉（ことば）の力」で、単元で身につけた力をふりかえるよう設定されている。また、巻頭に「言葉（ことば）の力を集めよう」として一年間で学習する「言葉（ことば）の力」をロードマップで示すことで学びのつながりを実感できるようにしている。
続いて、第2の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。
6年生の教科書170ページ。興味・関心を高めるための工夫として、単元「発信しよう 私たちのSDGs」を設定し、SDGsについて協働的に調べ、編集し、発信する活動を設定している。また、108ページでは、国際連合事務局の中満泉（なかみつ いずみ）さんの文を掲載し、平和について考える内容となっている。
このように、SDGsをはじめ様々な現代的諸課題に関連の深い教材を各学年で数多く取り上げている。
次に、教育出版の教科書について説明する。この教科書では特に第1の観点と第4の観点を取り上げる。

まず、第1の観点の「基礎・基本の定着」について。

2年上の教科書の41ページ。単元扉のページに1文で「学習のめあて」を示し、児童の「読みたい」という気持ちを喚起するためのいざないの言葉が書かれている。また、47ページの「学習のてびき」には、めあての下にどのような言語活動を通して学ぶのかを示し、49ページの「ここが大事」には、目標とする力を身につけるためのポイントを短い文章で示すことで、どんな力がつくのが分かるように整理している。このように、学習の扉に書かれた「学習のめあて」から、「本文」「ふり返ろう」「ここが大事」と学びがつながるように設定している。

続いて、第4の観点「内容の表現・表記」について。

5年下7ページ。「世界遺産 白神山地からの提言 一意見文を書こう」では、根拠となる資料にもとづいて考えを深め、自分の意見を書くという学習を進めるが、12ページから17ページまでに様々な種類の資料と地図や写真を扱っている。また、児童の学びを広げる「まなびリンク」QRコードが示されており、読み取るとNHK for schoolの動画を視聴できるようになっている。このように、QRコードを読み取ることで、写真、動画、資料、ワークシート、インターネットのリンクなどが活用できるようになっている。

最後に、光村図書の教科書について説明する。この教科書では特に第1の観点と第5の観点を取り上げる。

まず、第1の観点の「基礎・基本の定着」について。

2年上の教科書の45ページ。単元の扉のページで、この単元でどのような力を付けるのか、単元の目標が示されている。また52ページの「学習」のページでは、「問いをもとう」「目標」を並べて示し、児童の問いを目標へとつなげるように整理している。そして54ページでは、「たいせつ」の欄に、単元の目標とする力を身につけるためのポイントを箇条書きで示し、どのような力が付いたのか分かりやすくまとめている。

続いて、第5の観点「言語活動の充実」について。

この教科書では、「話す・聞く」領域で、相手を尊重し、対話する力を育むよう、1学期は「耳を傾ける」2学期は「話し合う」3学期は「声を届ける」という単元を仕組んでいる。6年の教科書48ページでは、インタビューをして自分の考えと比べながら聞くこと、140ページでは、目的や条件に応じて話し合うこと、226ページでは、資料を使って魅力的なスピーチをすることが目標となっている。また、低学年から系統的に聞き方・話し方など説明しており、児童の積極的な自己表現を促す配列になっている。さらに、QRコードから活用の実写動画などを視聴することができ、よりよい話し方や聞き方が分かるようになっている。

以上で、国語科教科書の説明を終わる。

- ◇会長 委員の皆さんからご質問があれば。
- ◇会長 まずは私の方から、東京書籍の第2の観点の④。説明を伺うと、これは主体的な活動の方に記載されている意図があるのか。これが主体的な学習に取り組む工夫に、どうつながるか。
- ◇調査員 東京書籍は、子供が思考する、考えるような題材が多く設定されていたので、主体性というところで取り上げた。
- ◇会長 取り上げている問題自体が、子供たちの関心があるような問題だということか。
- ◇調査員 はい。発達段階に応じて、興味を持って子供たちが思考する、文章を読みながら考えるというところで、子供たちの主体性が高まると考えた。
- ◇会長 教育出版の第4の観点。具体例としてあげていただいたのは、根拠を示して書くということだった。資料を活用するということを学ぶところに注目すべきポイントがある。地図やグラフ等を活用するための工夫があるのか、むしろ評価ポイントとしては高いのではないか。分かりやすいように載せるというのは、どの者もやってきている。テキストを読むだけでなく、非連続テキストをテキストと結びつけながら活用するということが、近年、子供たちに求められる力の涵養につながるのではないか。
- ◇調査員 はい。
- ◇会長 光村図書の第1の観点①。難しいのは、子供たちに問いを持たせること。多くの授業では先生が問いを持たせる。児童自身に問いを持たせることは難しいが、とても大切なこと。光村図書は、児童に問いを持たせることについて、抜きこんで工夫があると考えて良いか。
- ◇調査員 2年生のP52「問いを持とう」のところで、子供たちに問いかけながら、問いを持たせている。この教科書の特徴は、問いを持つ、それが学習目標になるところ。
- ◇委員 三者とも、第1の観点、「基礎・基本の定着」が優れた点として挙げられている。基礎基本の力をつけていくためには、どこが尾道の子により相応しいか。
- ◇調査員 1番は、どれも基礎・基本のところで工夫されている。これまでは東京書籍を使用していて、見比べやすいので、比較してみると、扉が見開きになっている。今までは1ページ。ダイナミックで学びたくなるという意見が出た。学習の動機付け、導入の工夫として良いと感じた。ただ、どの教科書も、学習に向かう姿勢、基礎・基本のところで工夫されている。
- ◇委員 全国学力と関連して説明文を見た。全国学力に近いのは、教育出版だと思うが、その辺りの検討はあったか。

- ◇調査員 たくさんの資料を提示して考えさせるところは、他の教科書にもある。教育出版の特徴としては、より資料の数がたくさんあることである。
- ◇会長 それでは国語についての調査員の説明は、以上とする。
続いて、書写の調査報告をお願いします。

【書写】

- ◇調査員 東京書籍。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-③、3-⑤、4-⑥、5-⑦。
教育出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-③、3-④、4-⑥、5-⑦。
光村図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-③、3-⑤、4-⑥、5-⑦。
では、初めに、東京書籍の教科書について説明する。この教科書では特に第1の観点と第3の観点を取り上げる。
まず、第1の観点の「基礎・基本の定着」について。
1年の教科書の2・3ページ。「はじめに」のページで書写の体操・字を書く姿勢・手の置き方・背筋を伸ばすことなどイラストと写真でわかりやすく示している。また、「あし ぺた ぴん とん さあ かこう」の合い言葉で、よい姿勢を意識づける工夫がされている。4・5ページの手の置き方では、児童の目線と同じように上から見たときの手の位置を掲載し、鉛筆の持ち方がよりわかりやすくなっている。
続いて、第3の観点の「内容の構成・配列・分量」について。
この教科書では、各学年で様々な観点から「文字文化」に触れるページを複数取り入れ、児童の学ぶ意欲を高める工夫をしている。5年の教科書26ページ。「竹取物語」や「奥の細道」をなぞり書きし、古文を味わう。また38ページでは、世界のいろいろな文字を掲載し、文字への興味・関心を高めるための工夫をしている。
次に、教育出版の教科書について説明する。この教科書では特に第1の観点と第3の観点を取り上げる。
まず、第1の観点の「基礎・基本の定着」について。
5年の教科書の教科書では、17ページ。単元の目標を「めあて」と示し、その横に「考えよう」として学習課題を提示し課題解決学習を仕組んでいる。また、17ページの下欄に「学習の始めと終わりに書こう」として試し書きとまとめが書きのコーナーを設けている。まず試し書きを行うことで自分の課題に気づき、授業の

終わりにまとめ書きをおこない試し書きと比べふり返ることができるようにしている。

続いて、第3の観点の「内容の構成・配列・分量」について。

この教科書では、身につけた書写の力を生かせることができるよう、学習活動のどの場面で生かせるのかがわかりやすく、各教科と連携した指導計画を立てることができるようになっている。

4年29ページ。理科のノート为例で示し、学習内容が分かりやすいノートの書き方や図や色使いの工夫の仕方などを示している。理科の授業と合わせた指導を行うことで、日常生活へ生かすことができるように設定されている。

最後に、光村図書の教科書について説明する。この教科書では特に第1の観点と第5の観点を取り上げる。

まず、第1の観点「基礎・基本の定着」について。

1年の教科書では、4ページから9ページまでスタートブックとして、書写の体操、字を書く姿勢、左右の手の置き方、タブレットを使う姿勢、鉛筆の持ち方が示されている。また、「タブレットを活用しよう」というコーナーがあり、姿勢や持ち方を撮影して確か、教科書のQRコンテンツを活用して書く動画や写真を見たりすることができるように示されている。特に、習字の動画では、始筆・送筆・終筆の筆遣いや、字形などがよく分かる。

続いて、第5の観点「言語活動の充実」について。

この教科書では、国語科教科書と連動した教材を設置し、国語科と一体的に扱う工夫をしている。4年の教科書の28ページ。国語科で学習したリーフレットについて文字の大きさや配列に注意して、書くことができるよう設定されている。また、6年の教科書では、「書写ブック」がついており、1～6年生までに学習したことを日常生活に広げられるようにまとめられている。

以上で書写の説明を終わる。

◇会長 皆さんの方からご質問があれば。

◇会長 先に私の方から。教育出版の第1の観点。めあてについては、どの教科書も示している。そして、1つ目の「考えよう」については、第4の観点でも使っている。より特徴的なのは2つ目。学習の初め、単元の終了とでは、自分の書く文字が変わったと振り返らせるということが、基礎基本の定着につながる。自分がどれだけ成長し、何を学んだか、メタ認知できるので、特徴としては後半の方がふさわしいではないか。

◇調査員 その通りだと思う。めあてについては、どの教科書にも書かれている。授業の初め

と終わりを比べて振り返らせるように提示してあるのは、教育出版の特徴だと思う。

◇会長 第2の観点。理科のノートの例というのが、非常に興味深い。書写で学んだことを実際に生活で使うという活用の場面が設定されている。これは優れた工夫である。聞きたいのは、これは理科のノートが一つの例だったが、他にも学校生活、日常生活に活用するというのが、この教科書の特徴として言えそうか。

◇調査員 生活に生かすというのはどの教科書にもあった。しかし、教育出版は、理科のノートの書き方等が系統的に組み込まれていると感じた。だから、教育出版の特徴ととらえている。

◇会長 カリキュラム・マネジメントとしての配慮があるように感じたか。

◇調査員 はい。この教科書の特徴だと感じた。見たときにカリキュラム・マネジメントをしたくなるような構成にされていると感じた。

◇会長 今、言われたような特徴を取り上げておきたいと思う。私の方は以上。

◇委員 書写の教科書。国語の教科書と、書写の指導の関連性は、同じ者であるのか。

◇調査員 どの教科書も、関連して書かれている。関連を生かすためには、同じ教科書会社のものがよいと感じる。

◇会長 光村図書の「書写ブック」については、これは実際に活用できそうなものか。

◇調査員 6年生の教科書だけに載っている。卒業学年にあたって、1年生からの学習のまとめとしていくというところで取り上げられている。6年生のここで書写ブックがあるのは意味があると思う。

◇会長 小学校における書写の総合的なまとめになっているか。

◇調査員 そうである。

◇会長 書写の研究報告は、以上とさせていただきます。

〔調査員退室〕

委員の皆様、まずは国語の方から。

◇会長 質問の中にも入れたが、この報告書の記述については、調査員の先生が書かれたが、当選定委員会の議論を反映させて、加筆修正して出す。

東京書籍。第1の観点について、加筆修正してほしい。言葉の力として示すとあるが、ふりかえるというのものもある。「言葉の力として示すとともに、単元末ではふりかえるで、学びを定着させるよう工夫されている」というようにした方がいいと思う。次の一文は、分ける。「学びのつながり」は、「各単元の学びのつながりを実感できる」とした方がいい。

第2の観点のSDGsであるが、「現代的課題の中で、児童に主体的に思考させることのできる教材を取り上げている」とした方が良い。このままだと、SDGsな

ど現代的な課題を取り上げているということだけとなる。

教育出版。第4の観点の⑨。「グラフや地図等さまざまな資料を活用する学びが工夫されている」というようにした方がよい。動画のことは、そのまま残しておけばよい。「二次元コード」は、「QRコンテンツ」に変える。

光村図書。第1の観点の①「児童の問い」を「児童に問いを喚起し」にしておく。文末に、もう一文付け加えて、「また、『たいせつ』が設定され、学習内容の要点を定着させる工夫がある。」とする。光村図書の特徴は、問いを持たせることと、要点を捉える工夫だと思う。

第5の観点。話し合い方を動画で視聴することができる。話し合いの仕方をモデルとして示すことは難しい。先生一人で話し合いの仕方を教えることは難しい。モデルを動画で示すことは良い工夫。話し合いの仕方を教えるのは、評価できる。

- ◇委員 光村図書。二次元コードはQRコンテンツでよいか。
- ◇会長 事務局の方で、表記を統一しておく。
- ◇会長 どの教科書も○が2つずつ。評価ポイントの数が同じ場合は、どこを価値付け、重み付けするか。選定委員会としての意見は出しておきたい。どの者も第1の観点到○が付いている。
- ◇委員 どの者がいいというわけではないが、全国学力・学習状況調査とのつながりから言うと。資料から自分の意見を表現できることや話し合い活動から意見を言うことは多くなっている。子供たちがみんなの中で学ぶことが大事。あとは、資料から結びつけて考えられることが大事。
- ◇会長 本市の成績というレベルの話ではなく、このような力は、PISAでは新しい学力観のもと、これからの世界で生きていくのに必要な力ということで設定されている学力である。全国学力・学習状況調査も新しい学力を測る試みとして行われている。子供たちは、次なる社会の形成者である。学力テストで問われているというよりは、こういう力が必要という意味で重要である。その点で言うと教育出版の作りは評価できるとなる。
- ◇会長 それをより子供たちが生き生きと活動するように工夫されているのはどこかという観点からするとどうか。第5の観点、となると光村だが。そこもプラスに評価して良い。
- ◇委員 話し合いの動画は、魅力的だと思ったが、どこの者にもある。光村だけが突出しているわけではない。
- ◇会長 ということは、他の者にも同じ文言を入れたいといけない。逆に、光村図書にだけ○がつくのはどうか。他と違うのは、低学年からということだが。東京書籍は話し合いは3年から。教育出版は低学年から。光村図書は低学年。子供の実態はあると

思う。違いはそこくらい。光村図書の第5の観点は、他者と差がなくなってしまう。○は削除でよろしいか。

◇会長 他に、調査報告でなかったけれど、ここは大事だろうというところがあれば。ちなみに今はどこを使っているか。

◇委員 今は、東京書籍。

◇会長 東京書籍を使っていて難しいことは。

◇委員 特にない。扱っている文学作品は、普遍的な作品で、宮沢賢治など、しっかり入っていると思うが、どうだろうか。

◇会長 国語については、文言の修正を入れた上で、東京書籍と教育出版ということで。

◇会長 書写については、修正案を言う。

東京書籍の⑤に「児童の文字への興味関心を高め」を入れた方が良い。これは第3の観点になる。

質疑応答の中でも出たが、第1の観点は、「めあてが示されている」という一文を消して、「『学習の始めと終わり』として、試し書きとまとめ書きのコーナーを設けており、自分の課題に気づいたり、成長を振り返ることができるようになってい。」とする。第5の観点、理科のノート例を示すなども取り上げて、「学習の内容がわかりやすいノートの書き方や、図や色使いの工夫を示すなど、書写で学んだことを日常生活に活用する工夫がある。カリキュラム・マネジメントにも配慮したものになっている。」と付け加える。

光村図書については、第5観点の⑦「特に6年生の「書写ブック」は、小学校での書写学習の総まとめになっており、また日常生活で学んだことを活用するのに有効なものになっている。」とする。もとは、○をつけるに値するか明確でない文言なので、今のものを付け加えたい。以上が修正意見である。

教育出版の第2の観点の③に「示されている。」となっているが。ここは○がついているところではないのか。ここは、このままでよい。

国語の教科書と書写の教科書、同一の者のものを使った方が有効だということは、選定委員会の意見として残しておきたいと思う。子供たちが分かりやすく学ぶことができるということを押さえておきたい。

◇会長 よろしいか。書写については、3者とも○が二つ。特に意見等、追加はあるか。

はい、では、国語は以上。

続いて、理科の調査研究報告に入る。

【理科】

◇調査員 東京書籍。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-④、3-⑦、4-⑧、5-⑩。他と比較して優れているところは、2、4の観点。

大日本図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-③、2-⑤、3-⑦、4-⑧、5-⑩。他と比較して優れているところは、なし。

学校図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-⑤、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、2の観点。

教育出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑥、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、なし。

啓林館。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①③、2-④、3-⑦、4-⑧、5-⑩。他と比較して優れているところは、1、5の観点。

以上のような調査結果から、優れていると考えられる特徴のある三者、東京書籍、学校図書、啓林館の教科書について説明する。

では、初めに「東京書籍」の教科書について説明する。この教科書では特に第2の観点と第4の観点を取り上げる。

まず、第2の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。東京書籍6年生の教科書の136ページ。こちらは「電気と私たちの暮らし」という単元の導入ページ。

「レッツトライ！」というコーナーが設定され、ここでは、「電気が作られている場所と使われている場所を見つける活動」が設定されている。また、活動後に友達と話し合いながら、問題をつかんでいくという流れになっている。このように、まず自分が体験や観察、実験、既習事項や日常生活の想起をすることを通して、児童が本単元の学習内容や学習課題をつかみやすくする活動を取り入れている。これにより、主体的・対話的で深い学びのもととなる「学習者自ら課題を設定して解決していく」という道筋を作っている。

次に、第4の観点「内容の表現・表記」について。ここでは、5年生の教科書の44・45ページ。こちらは「魚のたんじょう」という単元のメダカの卵の成長・変化を表した写真。写真のサイズが大きく、変化や特徴等を細かく観察できるように工夫されているのが特徴である。受精卵を大きく提示することで、細部まで観察しやすくしてある。QRコンテンツのコンテンツも豊富。タブレット用のノート、動画、話し合いの例、資料映像、実験方法の例示、考え方をまとめる活動、まとめの問題等が用意されている。また、QRコンテンツのそばには、「動画」や「つなげる学び」というように内容が明記されており、活用しやすくなっている。5年生の教科書の83ページ。実験の囲みの右端に「やり方」のQRコンテンツがついている。こちらには、デジタルワークシートが用意されており、観察記録をタブレットで作って保存することができるようになっている。これからICTの活用がさらに

増えてくると、このように動画と観察記録がタブレット内でまとめられることは大きな特徴と言える。なお、第1、第3、第5の観点については別紙の一覧に示している通りである。

次に「学校図書」の教科書について説明する。この教科書では特に第2の観点を取り上げる。

まず、第2の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。6年生の85ページ。「てこのしくみとはたらき」の導入ページ。右下に「できるようになりたい—ここでは、特にこんな力がつけられるよ—」という枠があり、「スーパー計画アリ」「予想バード」「いかすひつじ」などの「理科モンスター」が登場している。この「理科モンスター」は、いろいろな理科の「見方・考え方」を使いながら問題解決をしていく過程で育成を目指す「資質・能力」を示している。つけたい力がキャラクターで表現されることで子供たちが楽しみながら、自分自身でつけたい力も意識して学習に取り組めるように工夫されている。87ページの「計画」の部分。ここにはスーパー計画ありとその隣にハートマークが3つある。これは、児童自身が学習の中でつけたい力を出せたと思ったら、自己評価をして塗っていくように設定されている。103ページの単元末にも出てきており、育成を目指す資質・能力を、学習者自身が随所で意識しながら学びを進めることができるよう工夫されている。

なお、第1、第3、第4、第5の観点については別紙の一覧に示している通りである。

最後に「啓林館」の教科書について説明する。この教科書では特に第1の観点と第5の観点を取り上げる。

まず、第1の観点「基礎・基本の定着」について。6年生の教科書の18・19ページ。ここでは、児童が初めて実験で使用する気体検知管や石灰水、気体測定器のような器具について、使用方法や注意点が単元内に記載されている。児童が確認しやすい配置となっている。他者と比較すると、啓林館以外の教科書は、器具の扱いは巻末にまとめて掲載されている。併せて97ページ。右側中央辺りにQRコンテンツがある。こちらでは、実験用ガスコンロの使い方を確認することができる。前学年までに扱ったことのある器具についても、扱い方を確認できるよう、安全への配慮がされていることが分かる。その他、オレンジ色の「注意」のマークや黄色の三角でのマークがある。注意すべき点については、それぞれの個所に文章で朱書きされており、目につきやすくなっている。非常に安全への配慮がされており、児童への注意喚起となる。ちなみに、黄色い三角のマークは、全部で6種類ある。次に、第5の観点「言語活動の充実」について。5年生の教科書、169ページ。

真ん中より少し下の部分に、子供たちがグループで話し合っている写真が示されている。これにより、友達と話し合うことで深い学びに向かうよう促されている。また、対話文が吹き出しで示されており、緑色のアンダーラインが入れられている。これは、理科を楽しむ見方・考え方のポイントなる言葉にひかれているもの。話し合いの中で見方・考え方のポイントを意識させるよう工夫されている。

6年生の教科書、21ページ。各単元末には、このような、「ふり返ろう まとめノート」という手書き風のまとめが示してあり、ページ下部には、「新しく学習した言葉」が列挙されている。これらは、自分で学習内容を振り返り、まとめる際のヒントとなっている。また、22ページには「たしかめよう」や「活用しよう」のコーナーがある。ここでは、学んだことを使って考えを説明したり、「新しく学習した言葉」を使って理由を説明したりする問いが出されている。さらに、「もう一度考えよう」では、単元の始めに出てきた問いに戻り、改めて単元での既習内容をもとに答えを導くというコーナーが設定されている。このように、書くこと、話すこと、考えることを繰り返し行えるような流れとなっている。

なお、第2、第3、第4の観点については別紙の一覧に示している通りである。全体として、学習の大きな流れや実験方法、まとめ方等は、東京書籍と啓林館がよく似ている。

◇会長 選定委員から質問をお願いします。

◇会長 先に私の方から。

東京書籍。第4の観点。写真のサイズが大きいという特徴である。そのこと自体の意味であるが、理科の学習において、事象の変化とか特徴をしっかりと観察するということは大切なんだ、ということで理解してよろしいか。

◇調査員 はい。

◇会長 理科の学習では、観察ということが、とても大事なので、東京書籍の教科書の作りは有効なんだということによろしいか。

◇調査員 はい。すごく鮮やかに見える。有効だと思う。

◇会長 学校図書について。手順、計画など、おのおのの段階で自己評価するような工夫は他者にはない特徴だと捉えて良いか。

◇調査員 はい。他者にはない。

◇会長 東京書籍のQRコンテンツが豊富だと言われたが、他者に比べて有効であるとか、豊富であるといったことはあるか。

◇調査員 他者については、全部を数えたものではない。東京書籍はQRコンテンツに、何が出てくるか明確に書いてあるので、子供たちが確認しやすい。また、QRコンテン

ツにノートが入っていて、そこに書き込んだり、写真をおさめたりすることができる。東京書籍はこういうことができるということを確認している。

◇会長 実際に使いやすくだらうということが1つ。書き込めるとはどういうことかももう少し詳しく。

◇調査員 今まで紙のノートでやっていたものが、ノート作りがタブレットの中でできる。おそらく、啓林館もダウンロードしたらできるのかもしれない。

◇会長 それは、大きな特徴だと思う。

◇委員 今使っているのは啓林館。比べたら東京書籍の方が版が写真が大きい。配列も分かりやすい。3年生、理科の導入にあたっての評価はどうか。

◇調査員 3年生、導入のところで、今はお答えすることはできない。

◇委員 理科的な見方・考え方が一番特徴的に出ている者があれば。同じような傾向があるというのであれば、それはそれでいいので。

◇調査員 子供たちが分かりやすいと思ったのは啓林館。会話の中でマーカーが引いてあるの

で。

◇会長 今の質問に関わって、第5の観点で、話し合い活動の中で、理科の考え方を学ぶような工夫があると書かれていた。これも大事な点である。

◇委員 理科は探究的な学びが大切。仮説を立て、実験で検証、考察するといった学習過程で使いやすい教科書はどこか。

◇調査員 学習の流れは同じように書いてある。子供たちがぱっと見やすいのは啓林館。12ページの問題。14ページのまとめ。同じような形ででてくる。こことここがつながっている。その間に、実験や考察があるんだねというのが、わかりやすい。そのあとにもっと知りたいというのがあって、次の問題がでるといふふうにつながっている。

◇会長 今は啓林館を使っている。今使っている者と、新しい者と何か大きな違いがあるか。

◇調査員 新しく入ってきたのは、イラストデータ集がついた。7ページ右上。イラストをダウンロードして自分のまとめのノートにつけることができる。これは新設されている。6ページ、7ページの「ICTを使ってみよう。」も新設されている。

◇会長 啓林館のところでは、ICT活用で新たな工夫があるということか。

◇調査員 はい。見方、考え方のマーカーを引くのも今回からである。

◇会長 他に委員から質問はあるか。それでは、理科の調査研究報告は以上。

〔調査員退室〕

審議に入る。

◇会長 東京書籍。第4の観点。説明いただいたことを補充して、より特徴があるところを明確にしたい。「写真のサイズが大きくて、理科の学習で大切な変化や特徴を細か

く観察するのに有効なものになっている。」とする。「また」を削除。「観察や実験の際に、自分で撮った画像や図、メモを使ったICTを活用した学習ができるようになってきている。」といったん切って、「実際に使いやすいQRコンテンツになっている。」とする。

学校図書。○を付けている根拠となる説明が弱いので、先ほどの説明でもあったように、「児童が自分で課題を設定し、見通しを持って、自己評価しながら活動していく工夫がある。」とする。表現は、後でもう一回見直した方が良いと思う。

啓林館。理科の考え方を学ぶ工夫を記述の中に残しておきたい。第5の観点に付け加えて、「言語活動の中で、理科の理解を楽しみ、見方や理科の考え方を学ぶ工夫が、」とする。○をつけているのが第1の観点と第5の観点なので、ここが注目されるので、入れておきたい。

○2つが東京書籍と啓林館ということになる。議論の流れからすると、啓林館の方がより理科的な思考を学べるになるかなと思う。

- ◇委員 3年生のところ。違うところは、風を扱うところ。啓林館のまとめの記述と、東京書籍のまとめの記述が微妙にちがっている。東京書籍のまとめの方には、風にはものを動かすはたらきがある。啓林館は風の力でものを動かすことができる。言葉の精選に違いがあると思う。力ということまで書いてあるのは精選されていると思う。学習指導要領には、風とゴムの力の働きとあるので、その辺り、丁寧に取り扱われている。
- ◇会長 啓林館の方がより理科の本質にそった記述になっている。直接○に関係するというわけではないが、2者の違いということで確認をしたい。具体的に風のところはわかりやすい。○の数だけではなく、「違いはどこなのか。どう表記するか。何をどう教えるか。」といった辺りでは、微妙な違いが現れている。
- ◇会長 もう一カ所、文言を訂正したい。東京書籍の第5の観点到○がついている。どこが優れているか明確でないので、調査員の先生のお話の中に出た2点を入れ込みたい。調査研究報告には、「内容や課題を表記しやすい」としか書いていない。「導入部分において、」の後のところで、「体験や観察、実験、既習事項や日常生活を想起することを通して、児童が学習内容や学習課題をつかみやすくする活動を取り入れている。」というのが一つ。もう一つが、「実験や観察の後、話し合いながら科学的概念を理解していく展開になっている。」ということをつけ加える。
- ◇委員 啓林館の第5の観点、まとめのところで、単元ごと、新しく出てきた言葉がきちんと整理されている。他のところでは出てこない。この言葉を使ってまとめると分かりやすい。言葉の確認もしやすい。他にはない良さなのではないか。
- ◇会長 啓林館の③のところ。新しく学んだ概念を定着させる工夫がある。

もともとは導入の扱いしか触れられていない。ただいまのことを記述しておきたいと思う。「新しく学習した言葉」というのは、そういうコーナーがあるので、かぎかっこで。報告書では「ことば」が漢字になっているけど、教科書ではひらがなになっていることもある。よく確認をして、学年で変わるものは、低学年に合わせる。啓林館の方が意味づけが、重くなった。○2つだが、より理科の学びに有効なのは啓林館ということで、選定委員会の意見としてよろしいか。

〔「よい」と呼ぶ者あり〕

【図画工作】

◇調査員 開隆堂。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑦、4-⑧、5-⑨。特徴的な点は、第1、第2の観点。

日本文教出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑦、4-⑧、5-⑨。特徴的な点は、第1、第2の観点。

では、初めに開隆堂の教科書について説明する。この教科書では、特に第1の観点と第2の観点を取り上げる。

開隆堂の第1の観点、基礎・基本の定着。開隆堂1・2年生（上）の教科書の4ページ。各題材の目標を、資質・能力を表す3種類のキャラクター「くふうさん・ひらめきさん・こころさん」と文章で示している。「くふうさん」は、形や色、方法や材料を知って工夫する力、「ひらめきさん」は、試したり、見つけたりして、考えたり、思いついたりする力、「こころさん」は、心を開いて楽しく活動し、友達と関わり、協力し合う力とし、図画工作科における3つの目標につながりを持たせており、全学年を通じて、同じ内容を教科書の巻頭に掲載している。特に大切にしたいめあてには、下線部が引いてあり、重点となるつけたい力が一目で分かるようにしてある。また、学習のめあてに対応し、どのような資質・能力を身につけたか確認できるように問いかけることで、ふり返りの視点を示している。開隆堂5・6年生（上）の教科書26ページ・27ページ。「くるくる回して」の題材では、学習のめあて「形や色、動く仕組み作りなどを工夫する」（p26）に対して、ふり返り「揺れ棒の動きから、どんなおもちゃを思いついて、どんな飾りを工夫したのかな」（p27）と、学習のめあてと振り返りを意識している。このことは、全学年・各題材で示されており、基礎・基本の定着に向けた学習が毎時間できるように仕組みられている。

次に、第2の観点、主体的に学習に取り組む工夫。開隆堂5・6年生（下）の36・37ページ。題材名「墨の達人」下に、『墨でかくことのよさって何だろう。

墨と水、いろいろな用具を組み合わせ、思いついたことをどんだんためしてたの
しもう』と、活動のきっかけとなる文を示している。支援を要する児童にも読みや
すい書体のUDフォントを使用していることも特徴の一つである。また、全ての題
材において、教科書の下の部分にあるQRコンテンツから、タブレット端末等で導
入動画と作品例を視聴できるとともに、作品カード・振り返りシートもダウンロー
ドすることができ、児童が主体的に表現と鑑賞の学習に取り組むことができるよう
に、支援・手立て等が仕組まれている。なお、第3・第4・第5の観点について
は、別紙の一覧に示している通りである。このように、開隆堂の教科書は、基礎・
基本の定着、主体的に学習に取り組む工夫が図画工作科の学習を通して育てる3つ
の力を意識した構成となっていることが特徴となっている。

次に日本文教出版社の教科書について説明する。この教科書でも、特に第1の観点
と第2の観点を取り上げる。

日本文教出版社の第1の観点、基礎・基本の定着。日本文教出版者第5・6学年
(下) 22ページ・23ページ。各題材の資質・能力の3観点を5項目(知識・技
能・発想や構想・鑑賞・学びに向かう力、人間性等)に細分化し、育てたい力をよ
り明確に示している。例えば、本題材において、

【手(知・技)について】

- ・(知) つくりながら、動きや形や色などの特ちょうを理解する。
- ・(技) 表したいことに合うように、材料や用具を選んで使う。

【電球(思・判・表)について】

- ・(発想・構想) 動きから、つくりたいものやつくり方を考える。
- ・(鑑賞) 動きのよさを味わいながら、自分の表現を見直す。

【顔(学び・人間性)について】

- ・何度も動きを確かめながら表すことを楽しむ。

と示されている。

また、思考力・判断力・表現力等においては、発想や構想等、表現のめあてと、鑑
賞のめあてを示し、表現と鑑賞を往還しながら活動できるようにしている。このこ
とは、全学年・各題材で示されており、基礎・基本の定着に向けた学習が毎時間で
きるように仕組まれている。

次に、第2の観点、主体的に学習に取り組む工夫。日本文教出版社1・2年生
(上) 28ページ・29ページ。題材名「いろいろな ざいりょうで ペったんし
たり コロコロしたり。どんな かたちができるかな。」の下に、活動のきっか
けとなる文を示している。活動のきっかけとなる文は、「どんなうつしかたがすす
めかな」と振り返りともつながっており、授業での一連の流れを想定した構成に

なっている。さらに、全ての題材でQRコンテンツから、タブレット端末等で用具の使い方、作品例、仕組み等を視聴できるように示されており、児童が主体的に表現と鑑賞の学習に取り組むことができるように、支援・手立て等が仕組まれている。なお、第3・第4・第5の観点については、別紙の一覧に示している通りである。このように、日本文教出版社の教科書は、基礎・基本の定着、主体的に学習に取り組む工夫が図画工作科の学習を通して育てる3つの力を意識した構成となっていることが特徴となっている。

- ◇会長 選定委員の皆様からご質問があれば。
- ◇会長 今の説明を聞くと、第2の観点は、開隆堂と日本文教出版ともに内容項目的には同じ。
- ◇調査員 だいたい同じ。
- ◇会長 優劣はないということになる。特徴も違いもないということになる。第1の観点で言うと、3つのキャラクター、3観点を5項目に細分化でいて、ということになる。その他違いがあるか。
- ◇調査員 2者についての違いは、大きくはないというのが特徴である。
- ◇会長 キャラクターを使っているし、3つの方が分かりやすいのか、より細かく5項目に分けている方が分かりやすいのか。
- ◇調査員 どちらがというと、難しいと調査員でも話になった。開隆堂を使っているところは開隆堂が、日本文教出版を使っているところは日本文教出版が、使いやすいとのことであった。どちらも分かりやすいとのことである。
- ◇会長 掲載されている作品の違い、傾向はあるか。
- ◇調査員 はっきりとはわからないが、子供たちがわくわくするように意識していると思う。
- ◇会長 どちらの者の方がよりよいか。
- ◇調査員 それは、優劣はないと思う。
- ◇委員 ユニバーサルデザインフォントとゴシック体の表記は、大きな違いか。
- ◇調査員 今まではなかった。支援が必要な児童を想定したつくりになっている。
- ◇委員 支援を必要とする児童には、ゴシックは適していないということか。
- ◇調査員 適していないのではなく、よりユニバーサルデザインの方がいうことである。
- ◇委員 学習のめあての提示について、開隆堂は、子供目線で書いてあるが、日本文教出版は、字も小さいし、大人目線である。どちらがいいか議論はあったか。
- ◇調査員 議論はなかった。開隆堂は楽しく学ぶ、日本文教出版は協働、対話ということを意識した作りになっている。ぱっと開いたイメージから話は出た。
- ◇会長 鑑賞に使う作品の傾向はどうか。こういうところが違うとか、図版の大きさがちがうとかというような、特徴はないか。鑑賞だけではなく、教材選定の違いはない

か。

- ◇調査員 鑑賞するための視点は2者とも教えている。
- ◇会長 鑑賞に使われている題材の違いはどうか。
- ◇調査員 特にない。2者とも、著名人などの作品を掲載している。
- ◇会長 違いはないということでしょうか。題材については、過去の選定では議論になってきた。図版の選定の違いは、顕著に見られた。過去の教科書ではあった違いが見られなくなったとしていいのか、そういった観点で調査をしなかったのか。
- ◇調査員 鑑賞という視点で比べる中で、違和感はなかった。どちらがどの作品が多いとかはなく、どちらもまんべんなく鑑賞ができると思われる。
- ◇会長 芸術祭に子供たちが参加するが、普段学んでいくとことと関わらせるとしたら、作品を制作する意欲を喚起できる特徴などはあるか。
- ◇調査員 芸術祭の絡みと言うよりは、一時間一時間の授業が大事である。その延長線上に芸術祭があると思っている。どちらもわくわくした作品作りができると思う。
- ◇会長 2者とも、目標の設定の仕方、枠の切り方以外は、とくに差が無いと理解してよいか。使われている教材、特徴、傾向という意味で、ほとんど差異のないものになっていると考えてよいか。
- ◇調査員 はい。
- ◇会長 調査報告は以上とする。

〔調査員退室〕

審議に入る。

どちらの者のものでも、子供たちが楽しく図画工作を学ぶことができると思う。
フォントの大きさの違いとはある。

- ◇委員 明らかに開隆堂の方が見やすい。書きぶりの違い、重点の色分けなど、見やすいのは開隆堂である。
- ◇会長 同意。
- ◇委員 開隆堂は、タブレットのところにも、何が見られるのかということが書いてある。
- ◇会長 確かに何が見られるか示してある。日本文教出版は作品としか書いてない。
- ◇委員 見方・考え方を養う上で、鑑賞教材が大切。開隆堂は、1年生から小さな美術館というコーナーがあり、高学年では2回コーナーがある。かなり有名な作品や子供たちに触れさせたい作品が掲載されている。鑑賞教材を見比べたときに、開隆堂は意識して作られている。主体的に学ぶという観点から、鑑賞教材の充実という点では、開隆堂の方が優れている。
- ◇会長 ○のところではないが、記述のところ、選定委員会が出た意見としては残しておきたい。

- ◇委員 日本文教出版の第1の観点の①。5項目の切り方で人間性等がここに入った方がいいのか。
- ◇会長 5項目の切り方については、もう一度確認をする。
- ◇委員 これが5項目になっているから、知識・技能としたのだと思う。
- ◇会長 活動は5つある。
- ◇委員 普通に表すときは、知識・技能がセットである。
- ◇会長 学習指導要領の3つの領域は、セット。ここで5つと言っているのは、活動が5つで「造形遊び・立体・鑑賞・絵・工作」ではないのか。
- ◇委員 「知識」「技能」「発想や構想」「鑑賞」「学びに向かう力・人間性等」とこの教科書では書いてあると調査員の方は説明した。
- ◇会長 手のマークが知識、技能。電球が思考・判断・表現。学びに向かう人間性が顔。それを5つにわけるとする文言はおかしくないか。
- ◇委員 確認した方がいいのではないか。
- ◇会長 事務局で確認しておくように。報告書は、3観点。小学校から高校まで、全ての教科で共通している。これは崩してはいけない。このままの記述では使えない。
- ◇委員 3観点を細分化しているということでもいいのではないか。あえて5項目にする必要はない。
- ◇会長 そうなると、開隆堂と日本文教出版の違いがなくなる。キャラクターかアイコンか。どちらも同じということになる。あえて言うほどのことではないが、題材によっては、学習事項を細分化して示している。いずれにしても、このままの表記では良くない。
- ◇委員 項目という言葉を使っているので、3観点とも、題材とも重なりわかりにくくなっている。
- ◇委員 3観点を細分化しているから、評価はしやすくなっている。より丁寧な評価をしやすくなっている。
- ◇委員 教師目線としても、評価しやすい。
- ◇会長 「3観点をアイコン化して学習のめあてを示している。」「また、それぞれの観点の学習目標を示している。」とする。
- ◇会長 どちらも二つ〇。子供目線で使いやすいと考えた時、フォントの種類、大きさ等、開隆堂の方がより行き届いている。大きな違いはないが。図画工作は以上。

【社会】

◇調査員 東京書籍。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑤、4-⑦、5-⑩。

教育出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑤、4-⑧、5-⑨。

日本文教出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑤、4-⑦、5-⑩。

初めに、東京書籍の教科書について説明する。この教科書では特に第2の観点と第5の観点を取り上げる。

東京書籍の第2の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。3年生の教科書42ページ。「学習のねらい・めあて」に当たるものがページの上部に書かれているだけでなく、ページの下部に、「まなびのポイント」が書かれている。これは、毎時間示されており、これにより、めあてに沿って、どんなことを中心に学習を深めていくのかをつかむことができる。主体的に学びに向かおうとするきっかけを与えているところが特徴的である。

次に、第5の観点「言語活動の充実」について。5年生の教科書上の24～25ページ。「社会科の学習の進め方」が書かれている。基本的な学習の進め方が示されており、キャラクターを使いながら、社会科の見方考え方を使って探究的に学んでいく方法がわかりやすく書かれている。また、教科書の巻頭ではなく、選択教材の直前に配置することで、より効果的に活用できるようになっている。同じく5年生の教科書上の70～71ページ。導入部分で子供達が話し合う形で学習問題を作るストーリーが展開されており、課題設定のモデルとして機能している。対話的な学習から表現力を培い、探究的にお互いの考えを深めていく効果が期待できる。

2番目に、教育出版の教科書について説明する。この教科書では、特に第2の観点と第3の観点を取り上げる。

教育出版の第2の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。3年生の教科書24ページ。中学年の教科書では、ページの左下部分に、毎時間ごと「活動」の流れが示されている。児童は、これを頼りに、自分たちで学びを進めることができるように工夫されている。5年生の76ページと82ページ。高学年の教科書では、「やってみよう」や「学びの手引き」という形で、学習を進めるポイントが書かれている。児童は、これを頼りに、資料をどう読み取り活用していくかがわかりやすく示されている。児童の発達段階に合わせて、主体的な学びを引き出そうとしている点が特徴的である。

次に、第3の観点「内容の構成・配列・分量」について。第5学年の教科書目次を見る。目次の単元の表題の後ろに、ひらがなの色付き文字で「せんとく」と示され

ている。これらが選択教材となっており、児童が教材を選んで学習をすることができるようになっている。多くの選択教材を設けることで、ジグソー法を活用し、学びの幅を広げようとしていることがわかる。それぞれの教材をクラス内で分担して調べ活動を行い、発表の機会を作ることで、より広く学んでいくことができるのが特徴的である。

3番目に、日本文教出版の教科書について説明する。この教科書では、特に第3の観点と第4の観点を取り上げる。

日本文教出版の第3の観点「内容の構成・配列・分量」について。第6学年の272ページ。このページには「未来につなげる わたしたちのSDGs」として、単元の内容とSDGsをつなげるページが設けられている。世界が抱える様々な問題をユニセフ、環境問題、国連、国際協力の流れで記載されており、世界は諸課題にどう働きかけを行っているのかが記されている。このページだけでなく、各単元ごとに設けられているので、歴史で学習したことが現代の生活とどうつながっており、どのように生かしていくのかが分かりやすくなっているところが特徴的である。

次に第4の観点「内容の表現・表記」について。第5学年の教科書144ページから159ページの「自動車工業の盛んな地域」を見る。この教科書は、QRコンテンツが豊富に配置されており、ページをめくるごとにQRコンテンツが出てくる。学習の計画をたてるワークシート、見方・考え方についてのワークシート、学び方・調べ方のワークシート、学習のまとめのワークシート、教科書に記載されている写真に関わりがある動画が用意されており、社会的な見方・考え方を働かせながら、見通しをもって学習が進められ、実感を伴った理解を促しているところが特徴的である。

以上で、社会科教科書の説明を終わる。

- ◇会長 選定委員の皆さんから質問があるか。
- ◇会長 東京書籍の第2の観点④、「考える視点」ということを、もう少し分かりやすく説明してほしい。
- ◇調査員 教科書42ページでは、「つかむ」というところに学習課題がある。その下に学びのポイントという欄があり、そこに話し合うことや調べることが示されており、このあたりに沿って学習を進めていくことは、子供たちにも分かりやすく示されていると考えた。
- ◇会長 ここで出ている学びのポイントで示されているのは、実際に即した言い方をすると、「～について調べよう」「～について話し合おう」など、何についてが示してある。「学びのポイント」とは何かということが、もう少し正確な説明ができない

かなと思う。

- ◇委員 学びのポイントの説明は、教科書には学習のポイントとなる活動を示しているとしている。
- ◇会長 課題解決のための具体的な活動を示しているとした方が近いかもしれない。そういう理解でよいか。単元ごとに課題があつて、課題を解決するための具体的な活動を示しているという理解でよいか。視点を示しているというのとは少しずれていると思う。
- ◇委員 尾道以外の他県のことが書かれている。他県のことを学びながら、尾道のことも考えていくというような学習形態が大事だと思うが、学習展開をする上で、特徴的で使いやすい教科書はあるのか。
- ◇調査員 どの会社でも同じ。教科書では他地域で学習し、そこから特徴を見つけて、本県や尾道ではということになる。同じ視点をあてて、学習を進めるということになる。そういった学習展開は大切になる。先生方がそういった視点をもつてのぞめば、学習は深まると思う。
- ◇会長 日本文教出版の第3の観点。「各単元に設けられている」とあるが、何が設けられているのか。
- ◇調査員 230ページにも同じように、未来につなげる私たちのSDGsの町作りについてある。それから、もうひとつ前の単元では、94、95ページに世界遺産についてとある。単元の後ろに、SDGsに関連するようなページを設けている。
- ◇会長 未来につなげる私たちのSDGsが各単元ごとに設けられている。歴史等、学習したことが、現在の生活にどうつながっていくか考えられるようになっている。
- ◇委員 社会科の授業では、問いを立てるのが難しい。各者で問いの立て方の特徴は。
- ◇調査員 細かくは見られていない。
- ◇会長 東京書籍では、問題設定のところが「つかむ」になっている。東京書籍は、「つかむ」ということを問題の把握ということを使っている。教育出版も「つかむ」を使っている。日本文教出版はどうか。
- ◇調査員 日本文教出版は特にない。
- ◇会長 日本文教出版なら問いが教科書内に示してある。子供たち自身が問いをもつという活動が、本来のアクティブラーニングである。子供たちが問いを作るという工夫が、ほかの教科書に見られるか。
- ◇調査員 押しつけられたように見られるが、先生方が子供たちと学びながら、前時のことを次につなげて問いをもたせていくように工夫する必要がある。
- ◇会長 理科などの場合だと、子供たち自身に問いを喚起する工夫をしている教科書もある。社会では、そのような活動が仕組まれているものはあるか。

◇調査員 どの教科書にも設定されているが、3年生の場合、学校の周りから、校区全体、町へと広がっていく中で、特徴が見えてくる。教科書を使いながら、自分の住んでいるところに当てはめていく中で、問いが見えてくるものがある。

◇会長 以上で、よろしいか。
続いて、地図の方の説明を。

【地図】

◇調査員 東京書籍。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-③、3-⑤、4-⑥、5-⑦。

帝国書院。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑤、4-⑥、5-⑦。

次に特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴について、観点ごとに簡潔に説明する。

では、初めに、東京書籍の地図について説明する。この地図では、特に第2の観点と第4の観点について取り上げる。

東京書籍の第2の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。地図1ページから6ページ。巻頭ページの世界地図と日本地図を示す際に、「ホップ ステップ マップでジャンプ」というクイズが記載されている。学習の際に、そのページを使った児童が学年の学習内容を深めるきっかけとなっている。様々な角度から地図を見る視点を与え、地図に描かれていることから視点に沿った情報を抜き出すことの面白さに触れることができるようになっており、興味・関心を引き出しているところが特徴的である。この「ホップ ステップ マップでジャンプ」は、全体で70問設けられ、難易度のレベルも3段階に設定されており、レベルを選択することで個に応じた指導をしやすくなっている。

次に第4の観点「内容の表現・表記」について。地図の97ページから99ページ。色分けされた日本の地形図に、関東大震災以降の主要な地震、台風、豪雨、噴火、大雪の発生した場所が示されている。そして、地図には、地震の震源地や大きさ、プレートの境界や火山の場所が図示されている。また、平成26年豪雨の土砂災害の写真も記載されており、本県で起きた災害を取り上げることで、災害をより身近に感じることができるようになっているのが特徴的である。

2番目に、帝国書院の地図について説明する。この地図では、特に第1の観点と第2の観点を取り上げる。

帝国書院の第1の観点「基礎・基本の定着」について。地図の11ページ。

「地図のやくそく」では、この見開き2ページで方位を、1枚めくって次の見開き2ページに地図記号を、もう1枚めくって次に土地の使われ方（土地利用）について記載されている。十分に紙面を使い、児童に理解しやすいように工夫されている。17ページからの「地図帳の使い方」では、キャラクターを通して学びの視点を伝え、問題解決的に実際に地図を使いながら学んでいくという方法をとっているのが特徴的である。

また、表題のところにQRコンテンツが示され、航空写真やアニメーションによる説明クイズコーナーといったコンテンツを体験しながら学ぶことができようになっている。

次に第2の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。115ページ。

索引では、5色を使い分け、目的に応じた調べ方を容易にし、文字がたくさんあることに支援が必要な児童にも使いやすくなっている。また、「地図マスターへの道」で、クイズを使って索引を使いたくなるような仕掛けがされており、児童自ら進んで索引を活用しようとし、主体的に学んでいこうとする姿勢を引き出すように工夫されているところが特徴的である。

この「地図マスターへの道」は、全体で100問設けられ、難易度のレベルも3段階に設定されており、レベルを選択することで個に応じた指導がしやすくなっている。

以上で地図の説明を終わる。

- ◇会長 選定委員の皆さんから質問があるか。
- ◇委員 両者の違いについて、ICT活用で違いが出てきているのか聞きしたい。
- ◇調査員 量的なものはほぼ同等。動画が充実しているのは帝国書院。
- ◇委員 分量が充実しているということか。
- ◇調査員 はい。
- ◇会長 いかがか。今出ている（プロジェクターで投影）のが、そのQRコンテンツ。
- ◇委員 地図の色合いが違う。どちらが使いやすいか。
- ◇会長 見やすさという点ではどうか。
- ◇調査員 好みもあると思うが。濃淡がある。東京書籍は濃い色が多い。
- ◇委員 個人差はあるが、子供たちから見て、帝国書院の方が読み取りやすいと思う。
- ◇調査員 内容でいうと、帝国書院の55、56ページ。江戸時代の結びつき。歴史のページ。歴史にスポットをあてて、6年生が使いやすいように、見開きにしている。東京書籍1ページになっている。
- ◇会長 今の帝国書院の部分に相当する東京書籍の部分はどうか。

- ◇調査員 77ページ。「世界との関わり」という部分がある。
- ◇会長 スケールが大きい。帝国書院にワールドワイドな視点の大きいものはあるか。
- ◇調査員 帝国書院では見られない。
- ◇会長 東京書籍は世界との関わり、帝国書院は現代的な課題での結びつき。そのあたりが両者の違いと言える。
- ◇会長 よろしいか。調査報告は、以上とする。

[調査員退室]

- ◇会長 では、審議に入る。
- 東京書籍の④の「考える視点」のところ。課題解決のための具体的な視点を示している。東京書籍の第5の観点。「キャラクターの台詞を目印としている。キャラクターをモデルとして、社会科の見方考え方を使って探究的に学んでいく方法がわかりやすく示されている。」とする。
- 教育出版は、「選択教材を多く設け、」の後に「児童の興味関心や地域の実態に応じたものになっている。これらの教材は、アクティブラーニングで活用が可能である。また、ジグソー法を活用し、学びの幅を広げようとしている。」とする。
- 日本文教出版の第3の観点。「『未来につなげる わたしたちのSDGs』として、各單元ごとに内容とSDGsをつなげるページが設けられていて、歴史で学習したことが現代の生活とどうつながっており、どのように生かしていくのかがわかりやすくなっている。」と意味づけをする。
- 地図について。
- 東京書籍の第2の観点。「ホップステップマップでジャンプ」では、抜き出すことの面白さに触れることができ、興味関心を引き出すものになっている。
- 第4の観点。これも付け加えて、「平成26年8月豪雨の写真を掲載することで、災害の問題をより身近に考えることができるようになっている。」とする。
- 地図の教科書を選ぶときは、地域性ということも考えておかないといけない。
- 帝国書院の第1の観点。これに加えて、「『地図帳の使い方』では、キャラクターを通して学びの視点を伝え、問題解決的に実際に地図を使いながら学んでいくという方法をとっている。」とする。
- 第2の観点の方は、「記されており、支援が必要な児童にも使いやすいものになっている。」とする。「索引を使いたくなるような仕掛けがされており、児童が主体的に学んでいこうとする姿勢を引き出すような工夫がされている。」を付け加える。
- ◇会長 時間が超過している。この会場は17時まで。まだ皆さんの意見を聞けていない。
- ◇委員 次回は3教科なので、審議する教科がいつもよりも少ない。次回の審議終了後、時

間に余裕があれば、本日の第3回の審議内容について、ご意見があればうかがう。

◇会長 先ほど申し上げたとおり、事務局で修正をお願いします。

◇会長 毎回の報告書は、いつできるか。

◇委員 次回3教科が終わってから。

◇会長 皆さんお疲れ様でした。以上。とくに優れている点について、納得できる説明をいただいたと考える。

以上で第3回の選定委員会の審議を終了する。